

ハイネの評論活動および文学とカリカチュアとの関係

国際言語文化学科 小谷 民菜

●連絡先 TEL.054-264-5256 FAX.054-264-5099



ハイネとカリカチュア，批評と諷刺，レトリックとイメージ

生き生きとしたイメージの追及を文字テキストと図像の両方から行う。

目的：ハインリヒ・ハイネ(1797－1856)の評論の文体が生み出す形象性と、当時のパリのカリカチュア(諷刺画)が生み出す効果との関係をイコノロジー的な視点から考察する。

概要：19世紀の7月革命以後パリで活躍したユダヤ人作家ハイネが故国ドイツの新聞に書き送った、フランスの政治や社会情勢、芸術及び国民生活などに関する記事を実際の歴史と照らし合わせながら、オノレ・ドーミエ(1808－1879)をはじめとする当時のフランスの諷刺画家の作品に見られる特徴やテーマを幅広く調査し、ハイネとの関連性を追求する。

ハイネは政治的にも芸術的にも、いかなる権威や党派からも距離を保ち、様々な陣営から攻撃を受けながらも、批評活動を繰り返した。ドーミエは、共和主義の立場から、検閲とも戦い、社会・風俗・政治等あらゆる角度から諷刺活動を行った。ペンとクレヨンという違いはあれ、この二人は先入見や支配体制からの精神的自由という点で、現代の様々な問題を抱えた社会に生きる我々を先導してくれると考える。